

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYケアカレッジ

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初任者研修過程の全体像を把握できるようにする。 ・ 介護サービスの全体像や介護職の業務の概要を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①多様なサービスの理解	1	1	0	〔講義内容〕 <u>(1) 介護保険サービス(居宅、施設)</u> 居宅及び施設における介護保険サービスの種類とサービスが提供される場の特性を理解する。 <u>(2) 介護保険外サービスの概要</u> 介護保険外のサービスの種類とサービスが提供される意義や目的について理解する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	5	5	0	〔講義内容〕 <u>(1) 介護サービスを提供する現場の実際</u> 各種サービスの内容や利用者像などを通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 <u>(2) 介護サービスの提供に至るまでの流れ</u> ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。 <u>(3) 介護過程とチームアプローチ</u> チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する。 〔演習の実施方法〕 事例検討。症状・障害の種類、介護度によってどの介護サービスが適切なのか、事例を扱いながらディスカッションを行う。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的な視点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①人権と尊厳を支える介護	4.5	4.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 人権と尊厳の保持 介護を必要とする利用者が有する権利について理解する。</p> <p>(2) ICF、QOL、ノーマライゼーション 介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について理解する。</p> <p>(3) 虐待防止・身体拘束禁止 利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 虐待の防止、身体拘束の禁止について、事例を交えながら、介護現場の実際の状況を踏まえつつ、ケーススタディを行う。</p>
②自立に向けた介護	2.5	2.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 自立支援 介護における自立とは何かを理解する。また、「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。</p> <p>(2) 介護予防 介護予防の基本的な考え方について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 「その人らしさ」を尊重した個別的な支援の在り方について、事例をもとにグループディスカッションを行う。</p>
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 人権 人権について基本的な考え方について理解する。</p> <p>(2) 人権の文化比較 国際的・文化的な視点から人権の考え方の違いを理解する。</p>
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なポイントを理解する。 ・介護を必要とする利用者の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える考え方を身につける。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.5	2.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 介護環境の特徴 介護環境の特徴（施設と在宅の違いや、地域包括ケアの方向性等）を理解する。</p> <p>(2) 介護の専門性 介護の専門性と介護職に求められるものについて理解する。</p> <p>(3) 介護に関わる職種 多職種連携の目的を学び、利用者を支援する様々な専門職について理解を深める。</p> <p>〔演習の実施方法〕 具体的な事例を用いてどのように多職種が利用者へのアプローチを行っているかについて、ディスカッションを行う。ロールプレイで異なる職種の立場からケースを検討することによって、他職種の視点を身につけるようにする。</p>
②介護職の職業倫理	0.5	0.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 専門職の倫理の意義 介護職が身につけるべき職業倫理について理解する。</p> <p>(2) 介護福祉士の倫理 日本介護福祉士会倫理綱領に基づいて介護職に関わる倫理綱領を理解する。</p>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 介護における安全の確保 利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を理解する。</p> <p>(2) 事故予防・安全対策 利用者の安全な生活を守る仕組みについて理解する。</p> <p>(3) 感染対策 感染対策に関する基本的な知識を身につける。</p> <p>〔演習の実施方法〕 施設や自宅によって生じるリスクの違いについて、グループディスカッションを行い意見を出し合った後に発表する。</p>
④介護職の安全	1.5	1.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 介護職の心身の健康管理 介護の特徴を踏まえて、介護職自身の心身の健康管理の必要性について理解する。</p> <p>(2) 感染予防 介護職に起こりやすい心身の病気や障がいについて理解し、その予防と対策について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 介護職において起こりやすい心身のトラブルについて、グループで意見を出し合い、検討に内容を発表する。</p>
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	・介護保険制度や障がい者福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要の要点を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護保険制度	3.5	3.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景・目的・動向 介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について理解する。</p> <p>(2) 介護保険制度の基礎 介護保険制度の基本的なしくみを理解する。</p> <p>(3) 制度を支える財源・組織・団体の機能と役割 介護保険制度に関わる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 具体的な例を出して、介護保険制度上ではどのような対応になるかについてグループで検討を行い、グループ毎に発表する。</p>
②医療との連携とリハビリテーション	2	2	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 医行為と介護 介護職と医行為の実情と経過について理解する。</p> <p>(2) 在宅・施設における看護と介護の役割・連携 在宅および施設における介護職と看護職の役割と連携について理解する。</p> <p>(3) リハビリテーション リハビリテーションの理念と考え方について理解する。</p>
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3.5	3.5	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 障がい者福祉制度の概念 障がい者福祉制度における障がいの概念について、制度の変遷もふまえながら理解する。</p> <p>(2) 障がい者福祉制度のしくみ 障がい者福祉制度の基本的なしくみについて理解する。</p> <p>(3) 個人の人権を守る制度 個人の人権を守る制度に関する基礎的な知識を身につける。</p> <p>〔演習の実施方法〕 具体的な例を出して、障がい者福祉制度上でどのような対応になるかグループで検討を行い、グループ毎に発表する。</p>
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	・高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを理解し、初任者として最低限の取るべき行動や相応しくない行動の基礎を身につける。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護におけるコミュニケーション	4	4	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) コミュニケーションの意義・目的・役割 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。</p> <p>(2) コミュニケーションの技法 介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する。</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 介護現場で想定される場面におけるコミュニケーションの取り方について学ぶ。</p> <p>(4) 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 架空の事例を検討しながらコミュニケーション技術の使い方について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 利用者役と介護職役をそれぞれ担当してロールプレイを実施し、コミュニケーションの技法について学ぶ。ロールプレイで感じられたコミュニケーションギャップを共有する。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	2	2	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 記録における情報の共有化 介護における記録の意義と目的を理解し、書き方と留意点などについて理解する。</p> <p>(2) 報告・連絡・相談 チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。</p> <p>(3) コミュニケーションを促がす環境 会議の意義と目的を理解し、具体的な進め方について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 講師が他職種役、受講生が介護職役でロールプレイを実施し、介護現場で想定されるコミュニケーションについて学ぶ。</p>
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	・加齢と老化に伴う心身の変化や疾病について、生理学的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 老年期の定義 老年期や高齢者の定義について理解する。</p> <p>(2) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 老化の影響は個人差が大きいこと、老化と共に社会的な環境が高齢者の心理や行動に与える影響について理解する。</p> <p>(3) 老化に伴う心身の機能の変化と日常変化への影響 多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 実際の介護現場において、どのような状態像、訴えとなるのかなど、実践に即した知識の共有を行う。</p>
②高齢者と健康	3	3	0	<p>〔講義内容〕</p> <p>(1) 高齢者の症状と疾患の特徴 高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるのか、その特徴について理解する。</p> <p>(2) 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気を抱える高齢者の生活上の留意点について理解する。</p> <p>〔演習の実施方法〕 実際の介護現場において、どのような状態像、訴えとなるのかなど、実践に即した知識の共有を行う。</p>
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する際の判断基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①認知症を取り巻く状況	0.5	0.5	0	〔講義内容〕 (1) 認知症ケアの理念 「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 (2) 認知症ケアの視点 「問題視」するのではなく「人として」接する視点や、「できないこと」よりも「できること」を見て支援する意義を理解する。
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	3	3	0	〔講義内容〕 (1) 認知症とは 認知症が起きるメカニズムや統計的なデータを学ぶ。 (2) 認知症の診断 認知症の診断基準を知ることで、認知症への理解を深める。 (3) 認知症の原因疾患とその病態 アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について理解する。 (4) 認知症の治療と予防 認知症の治療と予防に関する基礎的知識を理解する。 〔演習の実施方法〕 実際の介護現場において、どのような状態像、訴えとなるのかなど、実践に即した知識の共有を行う。
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2	2	0	〔講義内容〕 (1) 認知症の利用者の生活障がい、心理・行動の特徴 認知症の症状によってどのようなケアが必要かを理解し、症状による心理・行動の特徴を把握する。 (2) 認知症の利用者への対応 利用者の尊厳を守りながら、認知症の症状への対応ができる視点を身につける。 〔演習の実施方法〕 具体的な事例を用いて、認知症を抱える利用者へのアプローチについてグループディスカッションを行い、意見を交換する。
④家族への支援	0.5	0.5	0	〔講義内容〕 (1) 家族への支援 認知症の利用者の家族の心理的な状態を理解する。 (2) 認知症の利用者を介護する家族へのレスパイトケア 家族介護者の介護の大変さを理解し、レスパイトケアの重要性を理解する。
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	・障がいの概念と ICF、障がい福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①障がいの基礎的理解	0.5	0.5	0	〔講義内容〕 (1) 障がいの概念と ICF 国際生活機能分類 (ICF) に基づきながら、「障がい」の概念について理解する。 (2) 障がい福祉の基本理念 障がい福祉の基本理念 (ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン) について理解する。
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	2	2	0	〔講義内容〕 (1) 身体障がい 身体障がいに関する基礎的な知識を身につける。 (2) 知的障がい 知的障がいに関する基礎的な知識を身につける。 (3) 精神障がい 精神障がいに関する基礎的な知識を身につける。 (4) 発達障がい 発達障がいに関する基礎的な知識を身につける。 (5) 難病 難病に関する基礎的な知識を身につける。 〔演習の実施方法〕 実際の介護現場において、どのような状態像、訴えとなるのかなど、実践に即した知識の共有を行う。
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	〔講義内容〕 (1) 家族の理解と障がいの受容支援 家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけでないことを理解する。 (2) 介護負担の軽減 障がいを抱える利用者の家族の介護負担を軽減するためのサービスや制度について理解する。
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(9) ことろとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①介護の基本的な考え方	1	1	0	〔講義内容〕 (1) 理論に基づく介護 介護が理論的にどのような変遷を辿ってきたのか理解する。 (2) 法的根拠に基づく介護 介護制度の法的な変遷について理解を深める。
②介護に関することろのしくみの基礎的理解	2	2	0	〔講義内容〕 (1) 学習と記憶に関する基礎知識 学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。 (2) 感情と意欲に関する基礎知識 感情と意欲に関する基礎的に知識を理解する。 (3) 自己概念と生きがい 自己概念と生きがいに関する基礎知識を理解する。 (4) 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 老化や障がいの受容に関する基礎知識を理解する。
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	7	7	0	〔講義内容〕 (1) 生命の維持・恒常のしくみ 生命の維持・恒常のしくみを理解する。 (2) 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識を理解する。 (3) 骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 骨や関節、筋等の身体に関する動きのメカニズムを理解する。 (4) 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 神経の種類とその動きについて理解する。 (5) 自律神経と内部器官に関する基礎知識 自律神経と身体の内臓器官に関する基礎知識を理解する。
④生活と家事	6	6	0	〔講義内容〕 (1) 生活と家事の理解 生活を継続していくための家事の重要性について理解する。 (2) 家事援助に関する基礎知識と生活支援 家事援助（調理、洗濯、掃除等の援助）の利用者への意義の理解と、具体的な方法について学ぶ。
⑤快適な居住環境整備と介護	5.5	5.5	0	〔講義内容〕 (1) 快適な居住環境に関する基礎知識 住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について理解する。 (2) 高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用 高齢者の障がいがある人が生活する中で、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。
⑥整容に関連したことろとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	0	〔講義内容〕 (1) 整容に関する基礎知識 整容の必要性と、整容に関連することろとからだのしくみを理解する。 (2) 整容の支援技術 利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。 〔実技演習実施方法〕 ※講師1名体制での指導 (1) 肢体不自由者のベッドでの寝衣交換（上下） (2) 肢体不自由者の衣類着脱の介助（片麻痺）

<p>⑦移動・移乗に関連した ところとからだのしくみ と自立に向けた介護</p>	<p>11</p>	<p>11</p>	<p>0</p>	<p>〔講義内容〕 <u>(1) 移動・移乗に関する基礎知識</u> 移動・移乗の必要性と基礎的な知識を理解する。 <u>(2) 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法</u> 移動・移乗に関する福祉用具とその活用方法について理解する。 <u>(3) 利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗の支援</u> 利用者本人の力を利用したり、ボディメカニクスを活用した移動・移乗の方法について理解する。 <u>(4) 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法</u> 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法について理解する。 <u>(5) 移動と社会参加の留意点と支援</u> 移動と社会参加の関連性とその支援に関する知識を学ぶ。 〔実技演習実施方法〕※講師1名体制での指導 <u>(1) ベッド上での体位交換</u> <u>(2) 肢体不自由者の立位介助、座位介助</u> <u>(3) 肢体不自由者のベッドから車いすへの介助</u> <u>(4) 車いす使用時の安全点検</u> <u>(5) 車いす移動の介助</u> <u>(6) 視覚障がい者の歩行介助</u> <u>(7) 肢体不自由者の歩行介助</u></p>
<p>⑧食事に関連したところと からだのしくみと自立に に向けた介護</p>	<p>7.5</p>	<p>7.5</p>	<p>0</p>	<p>〔講義内容〕 <u>(1) 食事に関する基礎知識</u> 食事の必要性と食事に関連したところとからだのしくみを理解する。 <u>(2) 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法</u> 食事環境を整備する意義と、食事に関連する用具とその活用方法について理解する。 <u>(3) 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法</u> 精神・身体機能の低下が食事に及ぼす影響と、その支援方法について理解する。 <u>(4) 食事の社会参加の留意点と支援</u> 食事と社会参加の留意点とその支援方法について学ぶ。 〔実技演習実施方法〕※講師1名体制での指導 <u>(1) 肢体不自由者の座位での食事介助</u> <u>(2) 視覚障がい者の食事介助</u> <u>(3) 口腔ケア</u> <u>(4) 口腔機能回復への支援</u></p>
<p>⑨入浴、清潔保持に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	<p>7</p>	<p>7</p>	<p>0</p>	<p>〔講義内容〕 <u>(1) 入浴・清潔保持に関連する基礎知識</u> 入浴・清潔保持がもたらす心身への効果について理解する。 <u>(2) 入浴・清潔保持に関連する用具の活用方法</u> 入浴・清潔保持に関連する用具に関する知識とその活用方法について理解する。 <u>(3) 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法</u> 本人の力を活かし、楽しい入浴の介護を行うため技術を身につける。 〔実技演習実施方法〕※講師1名体制での指導 <u>(1) 肢体不自由者への浴室での入浴介助</u> <u>(2) 肢体不自由者に対する座位での足浴</u> <u>(3) 肢体不自由者に対するベッド上での手浴</u></p>
<p>⑩排泄に関連したところと からだのしくみと自立に に向けた介護</p>	<p>6</p>	<p>6</p>	<p>0</p>	<p>〔講義内容〕 <u>(1) 排泄に関する基礎知識</u> 排泄の必要性と排泄に関連したところとからだのしくみを理解する。 <u>(2) 排泄環境の整備と関連する用具の活用方法</u> 排泄環境の整備と関連する用具の知識、その活用方法について理解する。 <u>(3) 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法</u> 気持ちの良い排泄介助を行うための知識と技術を身につける。</p>

				〔実技演習実施方法〕※講師1名体制での指導 <u>(1) 肢体不自由者へのベッドからトイレへの介助</u> <u>(2) ベッド上でのおむつ交換(紙おむつ)</u> <u>(3) 差し込み便器、尿器での介助</u>
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4.5	4.5	0	〔講義内容〕 <u>(1) 睡眠に関する基礎知識</u> 睡眠の必要性と、睡眠に関するところとからだのしくみを理解する。 <u>(2) 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法</u> 心地よい安眠を支援するための知識と技術を身につける。 <u>(3) 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法</u> 心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。 〔実技演習実施方法〕※講師1名体制での指導 <u>(1) ベッドメイキング</u>
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	3	0	〔講義内容〕 <u>(1) 終末期に関する基礎知識</u> 終末期の捉え方を学ぶ。 <u>(2) 生から死への課程</u> 終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。 <u>(3) 「死」に向き合うところの理解</u> 死に直面した人の心理状態について理解し、心の変化の受け止め方を理解する。 〔演習実施方法〕 <u>(1) 事例を踏まえた終末期介護の支援を検討</u> <u>(2) グループディスカッションを通じて意見交換を図る</u>
⑬介護課程の基礎的理解	2.5	2.5	0	〔講義内容〕 <u>(1) 介護課程の目的・意義・展開</u> 介護課程の目的・意義・展開について理解する。 <u>(2) 介護課程とチームアプローチ</u> チームアプローチにおける介護職の役割と専門性を理解する。 〔演習実施方法〕 <u>(1) 事例を踏まえてICFに基づくアセスメントの実施</u> <u>(2) 事例を踏まえた介護計画の立案</u>
⑭総合生活支援技術演習	7.5	7.5	0	〔講義内容〕 <u>(1) 演習を行うにあたって</u> 生活上の困難さを「その人らしさ」を失わず生活を再構築できる方法について理解する。 <u>(2) 事例検討</u> 具体的な事例を検討しながら、実際にどのような対応が良いかについて現場を想定しながら意見交換を行う。 〔実技演習実施方法〕※講師1名体制での指導 <u>(1) 検討の方法</u> 「事例の提示」⇒「ところとからだの力が発揮できない要因の分析」⇒「適切な支援の検討」⇒「支援技術演習」⇒「支援技術の課題」(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する) <u>(2) 事例の内容</u> 「高齢分野」から「認知症」「片麻痺」の2事例を実施。
(合計時間数)	75	75	0	

使用する機器・備品等	ベッド、車いす、トイレ、浴槽等
------------	-----------------

シラバス

指定番号 282

商号又は名称：株式会社 M.Y.Y MYY ケアカレッジ

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	・初任者研修を通じて感じたことや、考えたことについて振り返る。研修後も継続して学習することを前提として、今後介護職が身につけるべき知識や技術の見通しが立つようにする。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等
①振り返り	2	2	0	〔講義内容〕 <u>(1) 研修を通して学んだことについて</u> グループディスカッション等を行い意見を出し合う。 <u>(2) 今後継続して学びたいことについて</u> グループディスカッション等を行い意見を出し合う。
②就業への備えと研修修了後における実例	2	2	0	〔講義内容〕 <u>(1) 就業への備え</u> 実際に介護職員として働くに当たっての実務上の注意点などについて再度確認を行う。 <u>(2) 初任者研修後の介護キャリアについて</u> 実務者研修、介護福祉士資格、介護支援専門員など、実例を交えて今後の介護職としてのキャリアを見通せるようにする。
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	なし
------------	----